

## 日本マクロエンジニアリング学会第 38 回春季研究大会開催報告

2020 年 5 月 16 日(土)、武漢コロナで三密を自粛されている折、日本マクロエンジニアリング学会第 38 回春季研究大会は Zoom ミーティング方式で開催されました。事務局を含め参加者の多くは Zoom ミーティングが初めてで、操作に戸惑いながらでしたが何とか進行できました。



Zoom ミーティング待合室（杉野、渡邊理事はネット環境により画像 OFF）

### 開会の挨拶

茂木会長所用につき、小島副会長より初めての Zoom ミーティングが上手く行くようご協力をと、開会の挨拶がございました。

### 発表 1: 「マクロ経済学の『基本前提』」

松谷泰樹（中央大学経済学部）

『「古典派」経済学とは異なり、新しい経済学としてのマクロ経済学では、有効需要の論理にもとづき、「貯蓄と投資の均等は、所得とのかかりによってもたらされる」ものであるとされている。その場合、「貯蓄は投資によって決定される」ものであることが明らかにされている。つまり、セイの法則を否定し、これら 2 つの命題を提示することによって誕生したのがマクロ経済学であると言える。その意味で、これら 2 つの命題こそが、マクロ経済学を成立させるための「基本前提」と見なされるものである。そして、それらは、全て Keyens (1936) に先立つ Kalecki (1933) において提示されていたものである。マクロ経済を扱いながらも、「古典派」の経済理論にもとづき分析を手がける経済学は、決してマクロ経済学であるとはいえない。』とされました。(事務局が経済に不案内なため、レジメより抜粋)

日本マクロエンジニアリング学会 第 38 回春季研究大会	主催：日本マクロエンジニアリング学会 (JAMES) 後援：日本工業大学 NPO マクロエンジニアリング研究機構 (RIMEP)
日本マクロエンジニアリング学会は「研究、発表、実装を通じ、社会に貢献する」としております。経済学の分野でも現実のほころびに対し、新しい対応が求められていると感じられますが、マクロ経済学の「基本前提」について、実際面から岩手県滝沢市を事例として都市近郊農業における農地流動化に関する一考察について、報告がございます。一般の方も含め多くの会員の皆様のご参加と活発な質疑をお持ち申し上げます。	
日 時	2020 年 5 月 16 日(土) 13:00~14:30
場 所	Web 会議
参 加 費	一 般：なし(初回に限り一年間、本学会準会員になれる特典あり) 本学会員：なし(学生は有効期限内の学生証を提示いただければ無料)
プログラム	一般公演 発表 30 分、質疑 10 分(休憩を含む)

- 12:45 開場、受付
- 13:00 開会あいさつ 日本マクロエンジニアリング学会 会長 茂木 創
- 13:05 「マクロ経済学の『基本前提』」松谷泰樹(中央大学経済学部)
- 13:45 「都市近郊農業における農地流動化に関する一考察 ~岩手県滝沢市を事例として~」新田義修(岩手県立大学地域政策研究センター)
- 14:25 閉会、休憩

お問い合わせ 日本マクロエンジニアリング学会事務局  
〒195-0054 東京都町田市三輪町 530-1 (株) デザインウォーター内  
電話 044-701-0600 FAX 044-988-1876  
Mail: info@jame-society.jp URL: http://www.jame-society.jp/



<沿革>  
日本マクロエンジニアリング学会は、元外務大臣の大来佐武郎氏、OECD 科学技術政策委員会議長(当時)の大島憲一氏、元東京大学総長茅渕旬氏、日本学術会議会長(当時)の伏見康治氏、日本学士院(当時)の和達清夫氏らの肝煎りで、1985 年に創設された学術団体です。

### プログラム/ポスター

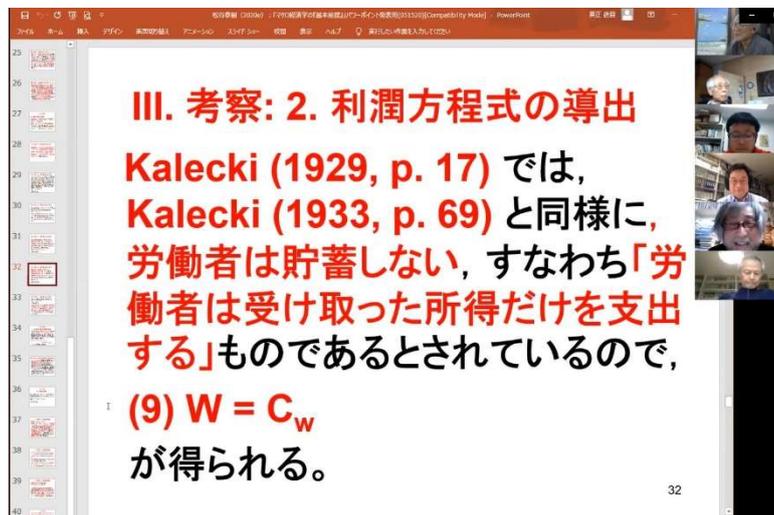
**発表2：「都市近郊農業における農地流動化に関する一考察 ～岩手県滝沢市を事例として～」新田義修(岩手県立大学地域政策研究センター)**

①農産物価格下落による地域経済の低迷、  
②農業所得の減少による担い手不足などの、  
農地流動化における現状と課題を踏まえ、

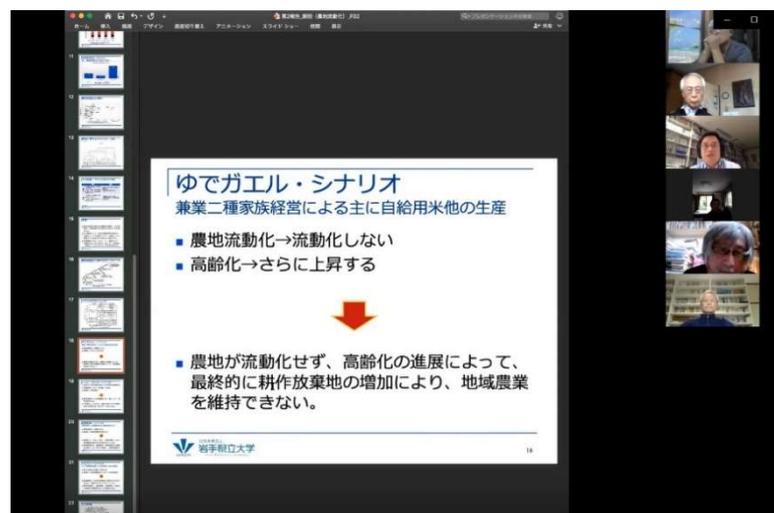
農地流動化のシナリオプランニングでは、  
①ゆでガエル・シナリオ(兼業二種家族経営による主に自給用米他の生産による現状維持)、  
②レイム・ダック・シナリオ(10a前後の小区画の圃場を維持したまま零細分散錯圃状態)、  
③竜頭蛇尾・シナリオ(個別経営体による集積を始めるが農地が集まらない結末)、  
④ドラゴン・シナリオ(法人大規模借地経営体による周年雇用・周年出荷実施)などを予測され、

今後の課題として、①農地の出し手と受け手の関係性への調査、②新規就農者の再編、③農地集積及び生産組織設立条件の解明などを挙げられました。

**反省会：** この後、14:30～総合討論、15:30～総会、16:30～理事会、17:10～反省会が行われました。Zoomの便利さを確認し、第2回理事会は8/23(日)15:30～、Zoomでとしました。以下反省会の模様(文責:事務局)



発表1：「マクロ経済学の『基本前提』」松谷泰樹



発表2：「都市近郊農業における農地流動化に関する一考察 ～岩手県滝沢市を事例として～」新田義修



反省会(乾杯の音頭は八木田企画委員長、鳴尾監事の映像は OFF)